

「ロボット支援手術の現況」

泌尿器科部長 黒瀬恭平

このたび、香川県立中央病院においてロボット支援手術システム『ダヴィンチSi』が導入されました。7月末よりまずは泌尿器科領域において前立腺悪性腫瘍摘出に使用され順調に稼働しております。これはひとえに塩田邦彦前院長を始め、ロボット支援手術システム導入に尽力頂いた関連部所の諸先生方、医療スタッフならびに事務関係者各位のお陰であると感謝しております。

さてロボット支援手術は、我が国にも急速に広まりつつあります。(図1)ロボット支援手術は大学病院などの限られた施設から既に一般病院で広く行われており、専門領域によっては『最新治療』から『標準治療』へと移行しつつあるのが現状といえるでしょう。

171台(2014年5月12日時点)



図1: 2014年5月現在 171台のダヴィンチが国内で稼働

ロボット支援手術とは、ロボットが自動で手術を行うものではありません。ロボットアームを利用して術者が手術を行うものでマスタースレーブ方式と呼ばれる遠隔操作型の手術支援システムであります。(図2)



(図2): マスタースレーブ方式におけるコンソールとロボットアーム

特徴としては高精度3Dモニターが術者の『目』となり、多関節可動ロボットアームが術者の『手』となり、従来の手や鉗子などでは不可能であった精緻な動きや可動性が得られ、より精密な手術が可能となります。患者さんにとって病気を治すのはもちろんのこと、従来の機能を温存し、早期に日常生活に復帰できるメリットがあります。

すでに香川県下3台目のダヴィンチ導入となりますが、香川県立中央病院の基本理念である『安全・安心』を提供するため、当院では従来手術の確実な導入から高度な手技への応用が期待できる最新のデュアルコンソールシステムを採用致しました。2台のコンソールで2人の術者が同じ視野を共有することで、より安全な手術が期待できます。また複数のアームをそれぞれ独立したコンソールで操ることが可能となるため、協調作業が必要な高度手術への応用が期待できます。今後も我々は香川県の拠点病院として求められる高度な医療を『安全・安心』に県民の皆様に提供すべく、チームとして取り組んで参ります。

緩和ケア外来 ペインクリニック外来を開設しました

緩和ケア内科 部長 仁熊敬枝
ペインクリニック科

7月1日から緩和ケア内科医師として着任いたしました仁熊(にぐま)と申します。

麻酔科医師として、麻酔、ペインクリニックを担当し、ペインクリニックで多くのがん患者さんを診るうちに緩和ケアを担当するようになりました。当院への赴任は緩和ケア病棟担当ということですが、まずは緩和ケア外来とペインクリニック外来を開設し、緩和ケアチームとして病棟での診察を始めたところです。将来的には緩和ケア病棟での活動が主軸になりますが、病棟以外でも院内で緩和ケアが広く十分に行えるよう、いろいろな仕組みなどの整備も行っていくつもりです。

緩和ケアの患者サポートは、がんと診断されたときから始まるものです。当院のようながん拠点病院では、早期からの緩和ケアが実践できる仕組みを作るよう厚生省からも求められており、この部分の整備から始める必要があると思っています。

終末期にならなくてもがん治療中には多くの苦痛が生じるため、身体症状に対する治療やケアを実践するほか、がん治療のことや今後の療養先についての情報提供やご家族のサポートなども緩和ケアの一環です。がん治療終了後のサポートのみが緩和ケアではなく、最期のそのときまでの時間をいかにその人らしく過ごしてもらうか、に主眼があります。強い痛みや苦しい症状があってはその人らしく生きることなどできませんので、まずは痛みその他の症状を取るのが大前提であり、その他に気持ちのつらさやより希望に添った療養先の情報などのサポートを展開してゆきます。

将来開設する緩和ケア病棟も、専門的緩和ケアの技術と知識を使つての治療が中心の病棟を、と考えており、急性期病院の緩和ケア病棟として集学的な苦痛緩和の治療を行い、症状が落ち着いたら、なるべく長くご自宅で過ごして頂けるように種々のサポートをしてゆきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

専門看護師のご紹介

がん看護専門看護師 萱原沙織
慢性疾患看護専門看護師 山崎路代

専門看護師制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的として、1997年に日本看護協会が定めた制度です。当院では、がん看護、慢性疾患看護の2分野でそれぞれ1名ずつ活動しています。

専門看護師は、複雑な問題を抱える患者さん、ご家族に質の高いケアを提供することはもちろん、院内外の研修で講義を行ったり、相談に応じて一緒に看護の検討を行うなど様々な場面でナースを支援しています。私たち2名は、専門看護師として活動を始めたばかりです。チーム医療の中で多職種間の調整や活動の基盤づくりなどに努め、各方面のスタッフから信頼の得られる専門看護師になれるよう活動を行って行きたいと思っています。



慢性疾患看護専門看護師の山崎路代さん(左)と
がん看護専門看護師の萱原沙織さん(右)

内覧会を開催しました

6月12日(木)、紹介・逆紹介などで日頃お世話になっている地域の先生方をお招きして、中央病院の院内視察会を開催しました。

当日は概要説明の後、外来診療部門、放射線部、中央処置室、検診センター、通院治療センター、オペ室、緩和病棟、屋上庭園、ヘリポート、救急外来などの視察を行い、中央病院の現状を理解していただくよい機会となりました。



「消化管エコー検査について」 消化器内科医長 泉川孝一

腹部超音波検査といえば、肝臓などの実質臓器を主に観察する検査と思われがちですが、腹部食道から胃、十二指腸、大腸、小腸といった腹部消化管などの管腔臓器も観察できます。私は、我が国の腹部超音波検査の第一人者である川崎医科大学の畠二郎先生に3か月間御指導いただく機会を与えていただき、超音波検査の管腔臓器の診断能の高さに驚き、今後の在宅医療においても、聴診器と携帯型エコーで診断の幅が大きく広がると確信いたしました。

腹痛を主訴とした患者さんに最初に行う検査としては、放射線被爆もなく、侵襲の少ない腹部超音波検査は非常に有用です。消化管の超音波検査は、空気や内容物の影響で観察できないと思われる先生も多いのですが、観えると思い、観ようとするのが重要です。しかも、ただ漠然と見るのではなく、「系統的な走査」を行うことが大切です。どの部位から観察し、どのように腸管を追跡するかを考えながら走査することで、多くの疾患が診断可能となります。

私自身が川崎医科大学にて経験した症例を紹介します。症例1は13歳男児で食後の腹部膨満感や嘔吐という主訴でSMA症候群として経過をみられていましたが、超音波検査にて十二指腸潰瘍の診断に至りました。症例2は3歳男児で時々出現する血便を主訴に超音波検査を施行し、S状結腸に若年性ポリープを認めました。2例とも小児ということで、CT検査や内視鏡検査をしづらい面があり、超音波検査が有用であったといえますが、成人でも十分に活用できます。

超音波検査では見えにくい場所はもちろんありますし、早期胃癌や早期大腸癌の検出はスクリーニングの超音波検査では難しく、消化管エコー検査が内視鏡検査の代わりになるものではありません。しかしながら、内視鏡検査が困難な方のスクリーニング検査としては威力を発揮する場合も多く、また、当院のような専門施設ではより多方面への応用が期待できます。

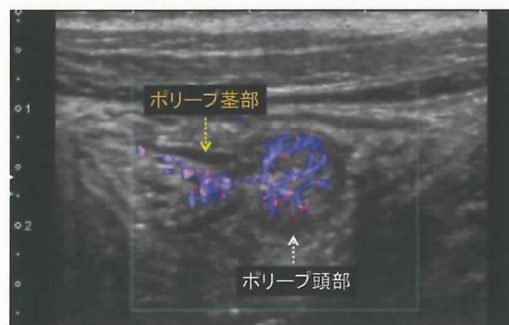
今後は、在宅医療を支えておられる先生方との勉強会も企画しつつ、消化器病医の更なる診断向上の一助となるよう研鑽を積む所存であります。



十二指腸潰瘍



若年性ポリープ①



若年性ポリープ②

PET-CTの予約が変わります

現在、地域連携室で予約を受けているPET-CTは、9月1日から、放射線部で受付します。申込方法は変更ありませんが、FAX番号と、お問い合わせの電話番号は変わりますので、ご注意ください。

PET-CT予約申し込みFAX番号 087-802-1218
お問い合わせ電話番号 087-802-1218

公開講座、くちぶえコンサートが開催されます

公開講座

日時: 平成26年10月18日(土)9:30～10:30
 場所: 香川県立中央病院1階待合ホール
 テーマ: 「C型肝炎の新規内服薬治療について」
 講師: 久留米大学医学部内科学講座
 消化器内科部門 井出達也准教授

ことりのさえずり～くちぶえコンサート～

日時: 平成26年10月18日(土)11:00～12:00(開場10:30)
 場所: 香川県立中央病院1階講堂
 出演者: 分山貴美子(くちぶえ、ウクレレ)
 松宮幹彦(ギター、ウクレレ)
 主催/高松市
 企画・実施/(公財)高松市文化芸術財団
 協力団体/香川県立中央病院肝臓病患者会

参加費無料・予約不要。駐車場は自己負担をお願いします。
 【お問い合わせ】地域連携室 (TEL087-811-3333)

医療セミナーが開催されました

6月26日(木)、アルファあなぶきホール小ホール棟において、「脳血管内治療について～最近の動向を踏まえて～」と題して、大塚製薬㈱と共催で医療セミナーを開催しました。

司会は脳神経外科の河内主任部長、講演は勝間田部長でした。参加者は医師等57名で、院外からも22名の先生方にご出席いただきました。



また、7月31日(木)、本院講堂において、「膵臓がんの治療—化学療法中心に—」、「膵臓がんの内視鏡的診断と治療について」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は川上院長補佐、講演は消化器内科の和唐部長、榊原医長でした。参加者は医師等79名で、院外からも25名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



FAX予約を推進しています

医療機関様からFAXによる外来の診察予約(初診の患者さんも可能です)を行う事ができます。

FAX予約をしている患者さんは、予約のない患者さんより診察が優先されます。そのため、紹介状があっても、予約のない患者さんは、待ち時間が長くなりますことをご了承ください。

また、当日の緊急受診や入院については、FAX予約できませんので、当院担当医に直接ご連絡ください。(循環器内科と脳神経外科は救急ホットラインがあります)

診療依頼のFAX用紙はホームページからも印刷できますが、地域連携室に連絡いただければ、お送りします。できるだけFAX予約を利用していただきますよう、よろしくお願いします。